

宇輝人

vol.49



庄村 弘幸 Syomura Hiroyuki

昭和16年松橋町生まれ。47歳から始めた陸上100mの自己記録は11秒8。1993(平成5)年世界ベテランズ陸上競技選手権決勝では8位入賞。1996(平成8)年、下益城郡体育協会から長年の功績を表彰される。登山好きで富士山にも3度登頂。

人生を変えた100m

34年前の夏に感じた喜びを、今でもはっきりと覚えている。松橋高校のグラウンドでの記録会、男子100m。県内中の高校から陸上部員が参加する中、47歳で初心者の庄村さんが先頭でゴール。タイムは12秒3。血気盛んな若者に勝利したこの日、人生が変わった。陸上の経験は全くなく、たまたま出た郡体で優勝したことがきっかけで、この記録会に誘われた。まさか高校生に勝つとは思っていなかった。だからこそ喜びも大きかった。

ここから庄村さんの快進撃が始まる。

60年続く2つの趣味

生涯の趣味が2つある。14歳で家業の家具屋の配達をするために乗るようになったバイク。25歳で

まる。県体100mには28年連続出場し優勝11回、2位8回。92(平成4)年に記録した11秒9は50代の記録として今も破られていない。

「人並ならば人並 人並外れにや外れぬ」中学生の時に耳にした地元松橋の偉人松田喜一の言葉だ。それから40年。努力を続け、九州各県の陸上選手権にも積極的に参加し、全国スポレクなどで優勝するようになった頃、実感をもつて理解できるようになった。

初めて自分で手に入れてからも、常に隣にバイクがあった。

「バイクに乗っていると何もかも忘れることができるんです。一人で走るソロツーリングも、マス(少人数)ツーリングもどちらも最高です。」と楽しそうに話す。

音楽に心奪われたのは、高校3年のとき。同級生の兄が持っていた大きなスピーカーから響く音に感動した。以来、機材を自宅にそろえ、ポピュラーソングやジャズ、何でも聴く。娘と共に歩いた結婚式のバーゼンロードで、大好きな曲の大塚博堂「娘をよろしく」がサプライズで流れた。イントロを聴いた途端「この曲のことを覚えて

いてくれたのか」と感極まった。

人生は2人3脚で

3年前、血栓が見つかり緊急入院。開胸する心臓バイパス手術を受けた。県体の連続出場記録は途切れたが、これからも体が動く限り走り続けようと思っている。

「夫の退職後はマイカーで日本中を2人旅しましたが、病気をしたので心配しています。でも、バイクもスピーカーもいつもこれで最後、と言って買っていますから。私が耐えてきたのが夫婦円満の秘訣でしょうね。」と妻のヒロミさんが笑う。夫婦は来年金婚を迎える。人生の2人3脚はこれからも続く。



1. 53歳で世界ベテランズ選手権出場。全力の100mゴール前 2. 11台目の愛車はずっと欲しかった98年式のYAMAHA FZX750 3. 後ろ向きにS字で走るトレーニング 4. 陸上を続けるきっかけとなった記録証 5. 54歳で日本選手権のサブイベントに参加 熊本県から唯一人選ばれ国立競技場のトラックを駆け抜けた

